

心豊かで主体的に活動する生徒の育成

～表現力の育成を図るための言語活動の工夫を通して～

I 研究の方向性

教科・総合・道徳と学校教育のあらゆる場面で、言語の役割を再認識するとともに、表現力を育成するための言語活動を推進する。生徒が言語を用いて、意欲的に表現することができる言語活動のあり方について実践的な研究を推し進めていく。自分の考えや思いを多くの場面で、より適切な言葉で、正しく相手に表現することができるようになれば、確かな知性と心豊かな人間性をもち、より主体的に活動する生徒の育成につながるものと考ええる。

II 研究の具体的内容と方法

1 表現力を高める言語活動の研究

- (1) 本校のめざす表現力のある姿にせまるために、教科指導における具体的な手段を探る。
- (2) 表現する力を高めるための具体的な言語活動の検討・実践
- (3) 発表ルールの設定と発表方法の工夫
- (4) 研究授業を通して実践検証する。(国語科・特別活動)

2 言語活動を支える力の育成に関する研究

- (1) 読書活動の推進(朝読書・一斉読書・読書週間・図書日より)
- (2) 言語環境を整える。
- (3) 授業規律、生活規律、あいさつ、返事の徹底
- (4) 内発的な発言の意欲を引き出すためにQ Uを実施し、分析していく。
(=よりよい集団作りを目指す)

(5) 関連行事との連携(クリーンアップ・廃品回収・保育実習・福祉施設訪問・ボランティア活動)

3 学力向上に関する研究と実践

- (1) 個に応じた指導の実践・少人数授業の実践
- (2) 基礎学力の向上に関わる研究と実践
→北斗タイムの実践、ランクアップテスト実施(毎週木曜日)
- (3) 家庭学習の定着を目指す。(家庭学習の手引き)
- (4) 特別支援教育の実践

4 昨年度からの継続研究

- (1) 開かれた学校づくり関すること(学校評価などについての実践と検討)
- (2) 目標に準拠した評価(絶対評価)についての研究と実践
- (3) 道徳教育の継続研究、実践
- (4) 地域の連携校(大藤小、神金小、玉宮小、塩山北中)とのネットワーク
- (5) ミニ児生連活動の継続(アルミ缶回収・地域クリーン活動)

III 成果と課題

1 表現力を高める言語活動の取り組み（具体的内容1～2について）

全職員がめざす表現力のある姿を共通理解し、その姿に近づくために、日常生活の中で言語活動を支える力をどう育てていくのか、また、教科・学活・道徳指導の中で何を実践していくのかを検討した。夏休みには講師の先生を招聘しての学習会を開き、どのような活動を通して、表現力を身に付けるのか明確にすることができた。本年度は教科指導と日常生活での指導の場面に分け、グループごとに研究を進め、それを全体で確認するようにした。

表現力を育てるための学習活動は何があるか、各教科ごと各学年あげたところ、[感受・表現][討議・共同]の部分が多かった。そこで、小グループを使った話し合い・学び合い活動を取り入れるようにした。また、定期テストにおいて、文章で自分の考えや思いを述べるような問題や、理由や根拠を述べるような問題を意図的に出題することにした。課題としては、教科の特性があるので、共通した取り組みができずに、それぞれの指導に任せてしまった。教科の特性を生かしながら、より具体的な研究をしていきたい。

言語を支える力を育てるためには、毎日の読書活動[読むこと]、生活ノートの記録[書くこと]、朝のスピーチ[話すこと]などを全クラスで取り組んでいる。より充実した活動となるように工夫をすることにした。また、今年度から話し合いのルールを決め、全校で共通して取り組み、さらに研究授業で検証した。班長が中心となつての話し合いのルールを徹底したことによって、スムーズな話し合い活動ができるようになってきた。しかし、定着してない部分もあり、大きな集団になると自信をもって発表できないという課題点もある。

QUを実施・分析したことにより、見えなかった部分が見えてきて、教師側の関わり方を共通認識することができ、二度目の分析に生かされた。

2 学力向上に関する研究と継続研究について（具体的内容3、4について）

今年度から毎週木曜日にランクアップテスト（漢字・計算・単語）を実施した。不合格者には個別指導をしたこと、また、満点合格賞を作ることにより学習意欲を高めるなどの工夫をしたことは、学力向上の一手段として有効であり、成果があったと言える。また、できた満足感・達成感を味わい、家庭学習の習慣化と意欲の向上を図る点でも大きな意味があった。年度当初に「家庭学習の手引き」を作成し、どの教科を、何を勉強するのか学習内容を明確にした。それにより、学習時間は十分とは言えないが、毎日の習慣化にはつながった。読書は習慣になっていて、休み時間など時間があると読書をしている生徒が増えている。しかし、それが言語力につながっているかと言うと、まだ課題がある。

IV 成果物

1年国語科指導案・2年特別活動指導案・家庭学習の手引き・塩北ライフ資料

（研究主任 三枝 ゆかり）